

林 ただまさ

議会だより

人と人との絆・支えあいを大切に！

ホームページ「林ただまさ通信」 * あなたの声をお寄せ下さい

No. 54 令和3年10月1日

発行 林 ただまさ

住所 廿日市市地御前 3-13-3

電話 0829-36-1307

携帯電話 090-3376-9918

Email hayashi-tada@hi.enjoy.ne.jp

林ただまさ街づくり Blog

<http://mitsukosan.blog57.fc2.com/>

(議会、活動状況を逐次掲載)

《廿日市市議会》

令和3年9月定例会

(9月7日～9月27日)

議案 24 件(決算認定 12 件)、報告 2 件、意見書 1 件、所管事務調査

私の一般質問(9月8日)

1. 中山間地域の定住促進の取組み

(背景)

・コロナ禍でテレワークの推進により、東京一極集中に少し歯止めがかかり、地方からみればU



IJターン受け入れの弾みになっている。

・本市は中山間地域定住施策として、空き家バンク、サテライトオフィス、大型遊具設置、活動拠点整備、運行バスの見直し策などの取り組みをしている。

(質問) 林 ただまさ

本市の人口推移は、令和2年10月1日の国勢調査を見ると前回調査に対し、653人減少(率0.56%減少)。地域別は住民基本台帳で大野地域が増加、その他は減少、特に吉和・宮島・佐伯地域の減少傾向が大きい。

これまでも、尾道市のNPO活動例示で空き家バンクの促進による定住促進、徳島県神山町を例でサテライトオフィスの取組みを参考に一般質問してきたが、これら中山間地域の定住施策の取り組みはどうか。

(答弁) 島原 中山間地域振興担当部長

空き家バンクは運用開始当初は登録及び成約数とも伸び悩み、平成19年度から平成30年度の12年間で登録29件、成約20件であったのに対し、令和元年度は登

国勢調査(単位:人)				▲は減	
	R2. 10. 1	H27. 10. 1	増減	率	
廿日市市	114, 253	114, 906	▲653	▲0. 56%	
住民基本台帳(単位:人)				▲は減	
廿日市地域	76, 027	76, 226	▲199	▲0. 26%	
佐伯 地域	9, 453	10, 413	▲960	▲9. 21%	
吉和 地域	618	716	▲98	▲13. 68%	
大野 地域	29, 439	28, 171	1, 268	4. 50%	
宮島 地域	1, 508	1, 696	▲188	▲11. 08%	
計	117, 045	117, 222	▲177	▲0. 15%	

録23件、成約10件、令和2年度は登録13件、成約15件となっており、近年、登録及び成約ともに伸びている。これは、空き家勉強会等の実施や空き家活用支援補

助金の拡充、地域支援員による物件の掘り起こしなどによるものである。今年度から、地域と連携し空き家相談員養成講座を実施し登録物件数を増やしていく。

サテライトオフィスの誘致について、令和2年度に広島市や本市沿岸部に本社・支社のある企業133社にアンケート調査を実施し、関心がある企業数社に訪問し意向確認したが開設までには至っていない。今後は、広島県や民間事業者と連携し、ニーズ調査や訪問などの誘致活動に取り組んでいく。

今後においては、国の地方移住施策の動向も注視しながら、更なる情報発信の強化を図り、各種定住施策を効果的に展開することで、佐伯・吉和地域の移住・定住人口を増加させ、地域力の維持、活性化に取り組んでいく。

5月20日施行の災害対策基本法等改正の目玉は、レベル4の避難勧告と避難指示を一本化して避難指示とし、個別避難計画作成

2. 災害対策基本法等の改正

(背景)

5月20日施行の災害対策基本法等改正の目玉は、レベル4の避難勧告と避難指示を一本化して避難指示とし、個別避難計画作成

を自治体の努力義務にしたことである。

避難指示に一本化されてから熱海の土砂崩れがあったが、避難指示が後手になり多くの犠牲者が出た。

7月、8月の豪雨では本市も避難指示は出たが、実際の避難者は少ない実態である。

(質問) 林 ただまさ

個別避難計画について過去の一般質問の答弁では、個人情報取扱いに対する不安感や支援する方の精神的負担がネックで、地区の自治組織、自主防災組織、民生委員等の取り組みが相互に機能する必要がある、連携できる体制づくりを働きかけるとあった。

地区が連携して取り組む環境づくりをすれば、個別避難計画作りも実際の避難にも繋がるがどうか。

(答弁) 中川 福祉保健部長

この度の法改正の趣旨を踏まえ、避難支援団体と連携し、土砂災害特別警戒区域に居住する要支援者全員の個別避難計画を今年度中に作成することを目指す。8月の大雨時には、市提供の

GISマップや要支援者名簿を活用して28地区中21地区で避難支援団体や支部が、土砂災害特別警戒区域に居住する要支援者へ訪問や電話による避難の呼びかけを行った。

地区によっては、自治組織役員や民生委員が要支援者を訪問したり、要支援者や支援者を記したマップの独自作成など自主的な取り組みが進みつつある。

他地区の事例の共有や避難支援に係る意見交換を行うことで、各地区の避難支援の環境づくりを促進し、市民の命を守る避難行動に繋げていきたい。

トピックス

7月8日朝方の大雨はJ A広島総合病院前の国道の冠水による一時的な通行止め、線路を挟んで北側の地御前金剛寺地区、要地区市道も冠水し、床下浸水、自動車の立ち往生などの被害が出た。

8月25日の地元での中間報告では1時間当たり70ミリの想定を超過する雨量があったこと、ごみ等で道路集水桝やグレーチングの排水遮断、雨水管の能力、扇ポン

プ場のポンプ(3台)が16分間冷却ポンプ不具合で一時的停止などが理由とあった。今後、当時の状況をシミュレーションして検証し、当面は大雨予測の際にポンプを自動運転より早く手動で動かす、地御前潮廻しに余裕を持たせる様にするとのことである。

あとがき

この度の大雨で地御前の広い範囲での道路冠水、床下浸水等が私が30数年前地御前に住み始めて初めての経験である。扇ポンプ場がない時は冠水が度々発生していたと聞く。いずれにしても最近の雨の降り方は変わってきており、緊急指定病院のJ A広島総合病院が、道路冠水により救急車が入れないという状態にはしたくないものである。

本会議最終日に令和2年度決算認定議案が提出され、閉会中の10月11日・12日・15日に決算特別委員会が審議するが、私も特別委員会の委員としてしっかりと質疑し、議会としてのチェック機能を果たしていきたい。

